



平成27年度 大阪府立大学貴重図書専門部会講演会
実施報告 『資料でたどる近代－住吉大社御文庫・
大阪府立大学蔵書を中心に－』

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-11-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/15067

平成 27 年度 大阪府立大学貴重図書専門部会講演会 実施報告 『資料でたどる近代－住吉大社御文庫・大阪府立大学蔵書を中心に－』

学術情報室 呉家静

大阪府立大学貴重図書専門部会は、平成 21 年度より、本学が所蔵する貴重図書を広く府民の方にも知っていただく機会となるよう、大学の公開講座として講演会を実施している。平成 27 年度は、大阪府立中之島図書館の協力のもと、上方文化研究センターと学術情報センターの主催事業として企画し、11 月 18 日（水）に I-Site なんばカンファレンスルームにて開催した。（参加者 44 名）

■第 1 部：府大図書館蔵『不如学斎叢書』と瀧村文庫

－維新の影に生きた二人の幕臣・岡田景徽と瀧村鶴雄－
講師：山中 浩之 氏（大阪府立大学 名誉教授）

当館には「瀧村文庫」と呼ばれる叢書がある。その大部を占める『不如学斎叢書』（全一六七冊）は、岡田景徽という幕末期の下級幕臣が筆談したもので、巻頭に、勝海舟自筆の序文が付されている。この叢書に関わった人や時代の背景、当館に蔵されるに至った経緯等について、山中名誉教授による講演会を開催した。



■第 2 部：輝文館の出版物を通して見た近代大阪の庶民性 －住吉大社御文庫蔵書『大阪パック』と『天下一品赤雑誌』を資料として－

講師：大橋 真由美 氏（大阪府立大学 客員研究員）

明治の末頃に、大阪の輝文館から刊行された雑誌『大阪パック』と『天下一品赤雑誌』を資料として、近代広告の導入とツーリズムへの関心、「エロ・グロ・ナンセンス」の先駆的な傾向、大阪人の好奇心や「いちびり」精神など、大阪の庶民性について、大橋氏による講演会を開催した。



以上